復活！白石市消防団 はしご乗り

「階子乗り隊」堂々の入場

団員の士気を高め、防災についての心構えを新たにしようと昨年六月、意気盛んな乗り手六人、支え手二十人からなる「白石市消防団階子（はしご）乗り隊」が結成されました。以来、仙台市消防団の指導の下、昼夜を問わず練習に励んできました。

十二月二日には、大正時代以来といわれる「はしご乗り」が白石城で披露され、約七メートルのはしごの上で勇敢な技を繰り出した法被姿の団員たちに、観光客などから大きな声援と拍手が送られました。

技を後世に継承

はしご乗り手（大平分団部長）
高橋朝雄さん

十二月二日の白石城でのお披露目、一月六日のホワイトキューブでの出初め式において、「はしご乗り」の演技を無事に終えることができました。これもご指導いただいた仙台市消防団の皆様をはじめ、消防関係各位のおかげであり、この場をお借りしてお礼申し上げます。

「階子乗り隊」は、まだ第一歩を踏み出したばかりです。仙台の佐々木先生から「はしご乗りとは神聖なもの。礼に始まり、礼に終わる」ということを教えられました。この基本を忘れずに、また新たな気持ちで精進を重ね、復活した技を後世に継承していきたいと思っています。

これからも乗り手、支え手一同、消防団の活性化と地域防災のために頑張ります。

（一本大の字）

（藤下り）

（唐　傘）

消防団とともに

白石消防署
署長 加藤　建さん

消防団員の方々には、日ごろ多忙な生業を営まれる傍ら郷土愛護精神と責任感を持って、地域住民の生命、財産の安全保護のため、献身的に消防業務に精励されておりますことに、深く敬意を表します。

皆さんのように教育訓練がされていて、指揮命令系統がはっきりしている人たちは、あらゆる災害現場において迅速、的確で臨機応変な対応がとれるため、とても貴重な戦力です。安心して現場を任せられる人たちがいるからこそ、私たちは現場全体を見渡した消防活動に専念できるのです。

これからも、消防技術の錬磨を図って、私たち消防署員と一緒に市民の皆さんの生命や財産を守り続けてほしいと思います。

頼られる消防団に

白石市消防団
団長 斎藤和男さん

今日の消防団の傾向として、全国的に団員の減少や結束力の低下などさまざまな課題を抱えていますが、白石市消防団では昨年、「階子乗り隊」が結成され、はしご乗りのまといに象徴されるよう、団員の結束がさらに強化されました。

私たち消防団員は、「自分の地域は自分で守る」という強い意識を持って、日々訓練に励んでいますが、これからも地域に密着した頼られる消防団となることを目指してまいります。

また、少しでも多くの方、特に若い方に入団していただき、防災の意義や技術を習得することはもちろんですが、世代を越えたコミュニティーの場所としても消防団を活用してほしいと思います。

消防団へ入団希望の方へ

消防団へは、原則として市内に住んでいる十八歳以上の健康な方であれば、市が定める条例定数（七百名）の範囲内で、どなたでも入団することができます。

あなたもぜひ、消防団に参加し、「頼られる人」になってみませんか！

消防団へ入団を希望する方は、市役所生活環境課（☎22－1314）、各事務連絡所、白石消防署（☎25－2259）へお問い合わせください。

１１９番のかけ方

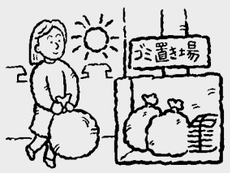
□火事と救急の区別をはっきり伝える。
「火事です！」「救急です！」

【火事の場合】
①住所は慌てず正確に伝える。
「○○町○丁目○番地○号の△△宅です」
②燃えているものは何かを伝える。
「台所が燃えています」
③状況を知らせる。
「炎が出ています」
「窓から煙が出ています」
④目標を伝える。
「○○小学校の東側です」
⑤きちんと名前を名乗る。
「○○○○です」
⑥電話番号を伝える。
「○○局○○○○番です」

【救急の場合】
①火事の場合の①に同じ
②事故や病気の内容を伝える。「いつ、だれが、どこで、どのようにして、どうなったか」
③傷病者の状態、既往症、かかりつけの病院なども伝える。「既往症は△△です。かかりつけの病院は○○病院です」
④病人やけが人の人数を伝える。
「けが人は○人です」
⑤火事の場合の④～⑥に同じ。
⑥以上の内容を伝え終わったら、目標物や目立つところまで出て、救急車が来たときに案内する。

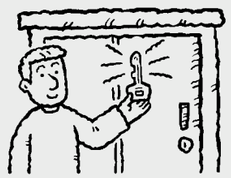
放火されないための環境づくりを！

○家の周りに燃えやすいものを置かない。
○家の周りを明るくする。
○郵便受けに新聞などをためない。
○ゴミは収集日の朝に出す。



○洗濯物の取り込みを忘れない。
○お隣との協力を。

○物置などには必ずカギをかける。



○防炎製品を使う。